

令和元年6月27日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02279

研究課題名(和文) 火野葦平の戦中・戦後研究 1930～50年代の自筆資料を基礎として

研究課題名(英文) During a competition and the postwar study about Ashihei Hino

研究代表者

増田 周子(MASUDA, CHIKAKO)

関西大学・文学部・教授

研究者番号：30294664

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)： 科研費受給中の4年間に、主に 火野の自筆『従軍手帖』と戦争作品の研究 火野作品にみるフォークロアの研究 火野葦平の戦後の平和活動の3点について研究をすすめた。 に関しては主に、火野の広東作戦関連と、インパール作戦関連について研究した。 については、火野の珍しい数の河童作品のうちから『平家物語』関係数点の作品群と、「石と釘」「亡霊」と水木しげる「小便」との比較研究、『聊斎志異』関連作品について研究をすすめた。 については、「アジア諸国会議」とその後の活動について研究をすすめた。結果として、雑誌論文14件、学会発表13件、図書4件の研究業績を発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

戦後七十年以上たった現在、風化しそうになった作家火野葦平の自筆の『従軍手帖』や陸軍中将田中信男の戦争『日誌』を用いた研究をおこなった。インパール作戦の実態や、広東作戦の実態を正確に把握するとともに、一見戦争加担者とされている陸軍中将なども、戦時中には、陸軍大本営の方針や戦争批判をおこなっていたことが分かった。戦争の研究は、既知の見解を覆すこともあり、大変意義があると考えられる。社会的に常識とされている通念を打開することもでき、重要な研究成果が生まれた。さらに、火野葦平とフォークロアの研究は、日本や中国の民話、伝承からの継承を明らかにし、東アジアの伝統文化と近代の問題を深めることができた。

研究成果の概要(英文)： The following three points were studied for four years. Study of "diary" and a war work by Ashihei Hino Study of the folklore seen in Hino work Postwar peace movement by Ashihei Hino It'll be explained more conversantly. It's explained more conversantly about . It's explained about1.It was studied about a Cantonese war by Ashihei Hino.It's explained about2.A kappa work by Ashihei Hino was studied."Stone and nail" and "ghost" by Ashihei Hino were studied.That Mizuki flourishes studied a cartoon "urine".A study was advanced about Ashihei Hino's "Liaozhai Zhiyi" related work.A study was advanced about the activity which is after that with "meeting of Asian countries".14 journal articles, 13 academic meeting announcements and research work of 4 books were announced as a result.

研究分野：日本近現代文学

キーワード：火野葦平 インパール作戦 聊斎志異 河童 中国 広東作戦

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

火野葦平は、芥川賞を受賞した『糞尿譚』(1938年、小山書店)で文壇にデビューし、戦時下には従軍作家としての体験を書いた兵隊三部作を描き、ミリオンセラーになる。日本で最も従軍期間が長かった近代作家であり、そのために、戦後は厳しく戦争責任を問われ、公職追放となった。公職追放解除後は、自己の両親のことを記した『花と龍』(1953年、新潮社)で、見事復活を果たし、平和活動に積極的に取り組んだ。しかし、戦争加担者としての汚名を完全には拭き切れず、波乱に富んだ時代に振り回され、1960年自殺をする。だが、国民が自殺だったと真実を知るのは、およそ10年後のことであった。

何度もベストセラー小説を発表し、国民的作家として人気を博し、昭和作家の代表的存在であることは言うまでもないが、生前は、戦争加担者として嫌われたこともあり、火野葦平研究は遅れている。しかし、火野の残した著作には、現代社会の問題を解決する糸口がある。火野の当時の言説、小説、自筆資料などを詳細に検討することで、戦争が世界各地で起こっている現状問題を打開するために役立つと考え研究を進めることとした。戦後70年以上を経た現在、戦争当時の重要な言説を風化させないためにも「火野葦平の戦中・戦後研究 1930～50年代の自筆資料を基礎として」という科研費のテーマに取り組む必要性があった。

2. 研究の目的

火野葦平の戦中と戦後の活動について研究する。火野の自筆『従軍手帳』から見た、日本の日中戦争ならびにアジア太平洋戦争の諸相の一端を研究する。また戦争体験から生まれた火野の小説の生成過程や内容を詳細に検討し、作品研究をおこなう。さらに、公職追放後に火野が積極的に行った外国訪問 - アメリカ・ヨーロッパ・中国・朝鮮で何を見聞し、世界に何を訴えたのかを火野の自筆『日記』から調査する。そしてその外国体験が戦後の平和活動にどう生かされたのかを研究する。また、1930～50年代に火野が比喩的に描いた、フォークロアを研究し、そこにどのような意味が見出せるのかを研究する。

火野葦平という文学者が関係した戦中と戦後を多角的にとらえ、1930年代から60年初頭の激動の時代について考究することが目的である。

3. 研究の方法

福岡県にある火野葦平資料館、河伯洞、北九州文学館を訪れ利用する。そして火野の未公開の資料を閲覧、デジタルカメラ等で撮影し、適宜複写した。その資料を元に、復元し翻刻する作業を行った。翻刻したものを論文にまとめ、一部出版した。その他、海外現地調査、聞き取り調査を行った。

また、国立国会図書館、日本近代文学館などの火野の雑誌資料をできるだけ多く調査した。それらをデジタル保存し、研究に役立てた。

4. 研究成果

科研費受給中の4年間に、主に火野の自筆『従軍手帖』と戦争作品の研究、火野作品にみるフォークロアの研究、火野葦平の戦後の平和活動の3点について研究をすすめた。に関しては主に、火野の広東作戦関連と、インパール作戦関連について研究した。については、火野の夥しい数の河童作品のうちから数点と、『聊斎志異』関連作品について研究をすすめた。については、「アジア諸国会議」とその後の活動について研究をすすめた。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 14 件)

①増田周子, 火野葦平「象と兵隊」論 兵士と象をめぐるインパール作戦の悲劇 - , 関西大学『文学論集』, 2019年, 1~16頁, 査読なし

②増田周子, 火野葦平「王六郎」論 『聊斎志異』「王六郎」との比較研究 - , 関西大学『国文学』, 2019年, 1~16頁, 査読あり

③増田周子, 火野葦平「青春と泥濘」論 人間の真実を希求する物語 - , 『李論21』第42号, 2018年, 236~360頁, 査読あり

増田周子, The Actual Conditions of the Imphal Operations and the Novel Youth and Mud by Hino Ashihei, 査読あり

ANNALS OF "DIMITRIE CANTEMIR" CHRISTIAN UNIVERSITY LINGUISTICS, LITERATURE AND METHODOLOGY OF TEACHING, 2018年, 9~18頁, 査読あり

増田周子, 火野葦平「白い旗」論 平家一族女河童の矜持と悲哀, 関西大学『国文学』2018年, 303~313頁, 査読あり

増田周子, 火野葦平「海御前」論 北九州市門司区大積天疫神社の海御前伝説をふまえて 関西大学『文学論集』2018年, 47~77頁, 査読あり

増田周子, A Study about Hino Ashihei's "Stone and Nail" and "Ghost" in Comparison with Mizuki Shigeru's Comic "Urine" Based on Legends from the Region, ANNALS OF "DIMITRIE CANTEMIR" CHRISTIAN UNIVERSITY LINGUISTICS, LITERATURE AND METHODOLOGY OF TEACHING, VOLUME XVII No.1, 2017年, 33~42頁, 査読あり

増田周子, 火野葦平「石と釘」の伝播、流行, 『あしへい』, 110-115頁, 2016年, 査読あり

増田周子, 火野葦平「恋と牡丹」論 『聊齋志異』「葛巾」の改変から見る主題, 『関西大学文学論集』, 1~24頁, 2016年, 査読なし

⑩増田周子, 火野葦平の新中国視察記 広東から、漢口へ, 『関西大学東西学術研究所紀要』, 2016年, 39~60頁, 査読あり

増田周子, 一九五五年火野葦平「アジア諸国会議」参加後 インドから香港、広東へ, 関西大学『文学論集』, 2015年, 59~109頁, 査読なし

増田周子, 火野葦平の戦後の平和活動 「アジア諸国会議」から中国へ, 『あしへい』, 2015年, 76~79頁, 査読あり

増田周子, 火野葦平 広東作戦 「従軍手帖」「解説」『戦争と文学スペシャル』, 2015年, 252~254頁, 査読あり

増田周子, 火野葦平 広東作戦 「従軍手帖」翻刻 陸軍報道班員の記した日中戦争 『戦争と文学スペシャル』, 2015年, 214~251頁, 査読あり

〔学会発表〕(計 13件)

①増田周子, 火野葦平「王六郎」論 - 『聊齋志異』「王六郎」比較研究-, 第16回中国外国文学会日本文学研究集会(国際学会), 2018年

②増田周子, 火野葦平「象と兵隊」論-兵士と象をめぐるインパール作戦の悲劇-, 東アジア文化交渉学会・第10回年次大会(国際学会), 2018年

③増田周子, The Battle of Imphal and Hino Ashihei's Literature (基調講演), Dimitrie Cantemir" Christian University, Bucharest, Romania, 2017年

増田周子, 火野葦平の河童文学, 北九州市指定文化財「河伯洞」(招待講演), 2017年

増田周子, 火野葦平「異民族」研究 インパール作戦『従軍手帖』「創作ノート」考察, 関西大学東西学術研究所, 2017年

増田周子, 火野葦平のインパール従軍記 インパール作戦『従軍手帖』の詳細とインパール戦の真実-, 第9回 東アジア文化交渉学会(国際学会), 2017年

増田周子, A comparative study on Ashihei Hino "stone and nail" and Shigeru Mizuki "urine" JAPAN - PREMODERN, MODERN AND CONTEMPORARY(国際学会)(国際学会)2016年 Cantemir Christian University

増田周子, 火野葦平と朝鮮 方法としての越境と混血 詩人黄瀛生誕110年を記念して (国際学会)(国際学会), 2016年

⑨増田周子, 火野葦平と『聊齋志異』廈門大学国際シンポジウム(国際学会)(国際学会)2016年

増田周子, 火野葦平「インパール作戦従軍手帳」から見た戦争の記録, 関西大学東西学術研究所日本文学研究班例会, 2016年

増田周子, 火野葦平の平和活動 - 1955年「アジア諸国会議」とその周辺 -, 関西大学公開フェスタ, 2015年

増田周子, 火野葦平の戦後の平和活動 「アジア諸国会議」から中国へ, 関西大学国文学会(招待講演), 2015年

増田周子, The View after the War: Hino Ashihei's 1955 Korean Tour, アジア学会 AAS(国際学会), 2015年

〔図書〕(計 4件)

①増田周子 『戦いの記 インパール作戦 弓師団長 田中信男中将陣中日誌』, 関西大学出版, 2019年, 183頁

②増田周子他 『火野葦平インパール作戦従軍記』集英社, 2017年, 589頁

③長谷部剛編, 増田周子他 『日本言語文化の転化』関西大学出版会, 2017年, 141-170頁

李征・魏大海他編, 増田周子他 『日本文学研究 北京・上海・広州 - 漂泊の身体と文本』青島出版社, 2016年, 211-230頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

〔その他〕
ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1)研究分担者
なし
(2)研究協力者
なし

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。